



1 高校生がIT活用実践を発表



※「いばらきP-TECH」参加校
県立水戸工業高等学校、
県立勝田工業高等学校、
県立IT未来高等学校、
県立水戸商業高等学校、
県立水戸第三高等学校、
県立つくばサイエンス高等学校

探研究果発表会に参加した高校生たち

8月8日(金)、「いばらきP-TECH」参加校※の高校生による探研究果発表会が本学で開催されました。参加した12名の生徒は「ITを通じた成長」をテーマに、ポスターセッション形式で発表を行いました。それぞれの発表内容は、授業・部活動等の教育活動や高大連携などの様々な学びを通して、ITをどのように活用し自己成長が図れたかを分かりやすく説明していました。

県立IT未来高校の生徒が開発した「英語発音学習ゲーム」は、「デジタル学園祭」(大阪・関西万博)でも発表し高く評価されました。また、感想では「開発に当たってチームワークの意義を学べた」と話していました。

県立水戸工業高校の生徒は、「3Dプリンターの可能性をITを通して学ぶ」について発表しました。身近にある3Dプリンターを活用し、低予算で「モノ作り」を実現していました。「3Dプリンターは想像力が掻き立てられる」と闘志を燃やしていました。

様々な課題にITを活用した発表がありました。次代を担う高校生の皆さん、明るい未来を拓いて下さい。



探研究果発表会の様子



2 『記事トシ』紹介



日本経済新聞(2025年7月19日) AIと人間の調和でよい医療を

●水地穂吏さん(常磐大高卒)

◇要約: 国内で約30件の医療AI機器が、薬事承認を受け内視鏡診断システムから、肺結節検出プログラムまで幅広い分野で実用化が進んでいる。

専門医が不足する地域でも、AIによる診断支援により皮膚がんの早期発見早期治療が可能になる。

◇感想: 生成AIの活用によって医師の診断能力を拡張し、様々な地域の患者さんにより良い医療を提供することができるのではと感じた。

しかし、課題もあることから生成AIを利用した人間中心の医療を調和させる必要があると思う。

●岡村優誠さん(下館一高卒)

◇感想: AI技術が医療分野にも実用化されていることを知った。医療現場では1mmのずれでも許されないほど精巧にプログラムされている。将来、自分もこうした仕事ができるよう精進していきたい。

●渡邊正史さん(水戸葵陵高卒)

◇感想: 技術の進歩によって医療現場にもAI技術が使われていることが凄いと思った。医師の診断能力を拡張して患者により良い医療を提供するパートナーとして、医療の新たな可能性が広がると思う。

●黒澤麻衣さん(佐和高卒)

◇感想: AIが医療現場で活用されている記事を読み、多くの人々を助けることになると思った。AI診断は重宝されると思うが、AIは万能ではないので、人間と調和させていくことが重要だと考えた。

●藤田彪吾さん(土浦工高卒)

◇感想: AI技術が医療現場で活躍する未来も近い。不安と期待が入り混じった感情を抱いた。自分もIT技術者として医療や社会基盤を支えるシステムエンジニアになりたい。

